



山腰 恵一 議員

大学との連携で地域活性化の推進を！

大学連携に向けた取り組みについて

【問】連携協定を結んでいる6大学との第一回連絡会議でどんな事が協議されたのか。

【答】少子高齢化への対応や地域産業の活性化など本市が抱える課題の解決に向け、大学の特性を活かした協力事業等について意見交換をした。

【問】教育分野における取り組みの現状と今後の推進は。

【答】郷土教育学習や持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進していく。

【問】地域資源を活かした「ものづくり」等の創出など「産学官連携」の推進は。

【答】これまで杉の圧縮材を技術開発し、家具等に利用するなど推進

している。

【問】大学生が地域の住民やNPO等とともに、地域の課題解決や地域づくりを継続的に取り組む「域学連携」の推進の考えは。

【答】岐阜大学との連携で、フューチャーセンターを開講し、様々な立場の人が集まり地域課題等をテーマに議論をしている。



田舎暮らしの推進について

【問】都市部から田舎暮らしへ向かう田園回帰の流れが全国的に起きている。本市の移住状況は。

【答】3年間で、363世帯471人が移住。前居住地は中部地区が210世帯260人、関東地区が57世帯88人、関西地区が35世帯43人である。

【問】都市部へのPRとサポート体制は。

【答】ふるさと暮らしセミナーでのPRや移住就業体感ツアーの開催などを実施している。また移住相談担当者を配置しサポートしている。

【問】移住促進へのさらなる取り組みは。

【答】新たに設置する東京事務所による情報発信や広域的な連携をはじめ、民間団体と協働して取り組みを進める。

青少年のインターネット利用等について

【問】安全・安心に利用できるマナー向上に向けた取り組みは。

【答】外部講師による情報モラル教室の開催など、マナー向上とトラブル防止に取り組んでいる。



中箴 博之 議員

冬期のバリアフリーを

まちの品格と深みに

【問】ぶんねもん坂・小糸坂・城坂・えび坂、空町・寺町、馬車道など、由緒ある地名等に着目すべきでは。

【答】散策しやすいまちづくりのためにも、身近な暮らしの中に歴史・文化が息づき親しみと誇りをもって呼ばれる地名等の紹介を積極的に検討したい。

【問】高山のよさをもっと市民が知り発掘する取り組みが必要では。

【答】大切なことである。積極的に取り組みたい。高齢化社会における雪対策について

【問】わだちやデコボコ、ザクザク状態、道路幅が狭まった状態、交差点の隅に積み上がった

雪の山などへの対応と判断基準は。

【答】市職員が現地確認の上で対応している。

【問】急速に進む高齢化を考えると、車道より歩道の除雪に力点を置くべきでは。

【答】歩道除雪についてもしっかりと予算を確保する。

【問】除雪の状態に大きな違いがあるが、業者への指導は適切に行われているのか。



【答】除雪後の状態を把握した上で個別に指導

をしている。

【問】高齢者や障がい者など「除雪注意世帯」の情報を除雪現場に伝えるため、黄色い旗を立てるなどの方策を。

【答】限られた時間内での除雪作業という厳しい実情のなか、地域での支え合いをお願いしたい。

【問】市営住宅入居者の高齢化を直視し、敷地内の雪対策ルールを見直すべきでは。

【答】市と指定管理者と入居者との意見交換をして検討していく。

【問】協働のまちづくりをふまえ、全庁的な協議の場が必要では。

【答】関係各課と連携し、地域の方々の協力も得ながら取り組む。

行政の許認可権限について

【問】行政の許認可の判断で民間の動きは大きく左右されるが、審査基準などは明確か。

【答】基準は明確で裁量の余地は小さいと考えている。